

米シリコンバレー銀行（SVB）の経営破綻で動揺広がる金融市場

- 3月10日に米シリコンバレー銀行（SVB）が経営破綻
- 金融市場はリスク回避から株安・金利低下・円高で反応
- 米国の利上げ見通しは急速に不透明感を増す環境に

■ 米シリコンバレー銀行（SVB）が経営破綻

3月10日、米国カリフォルニア州に拠点を置く金融持ち株会社シリコンバレー銀行（SVB）ファイナンシャル・グループ傘下のシリコンバレー銀行（SVB）の経営破綻が明らかとなり、国際金融市場に動揺が広がりました。

SVBは総資産2,090億米ドル（2022年末）と全米16位の中堅銀行であり、銀行破綻としては2008年9月の米貯蓄金融機関ワシントン・ミュージュアルに次ぐ過去2番目の大きさです。行名通り、新興IT企業が主な取引先である同行の破綻で米国株はナスダック指数などハイテク主導で急落、13日前場の日本株も大幅安となりました（図1）。

■ 当局は金融システム不安の拡散阻止に動く

一時は同行への預金の9割割が預金保護対象外となる可能性も指摘され、破綻直前に見られたような預金取り付け騒ぎ（SVBは金利上昇で保有債券損失が拡大、8日に公募増資を発表し流動性不足に）など、大幅な利上げの悪影響が一段と表面化するとの懸念も浮上しました。

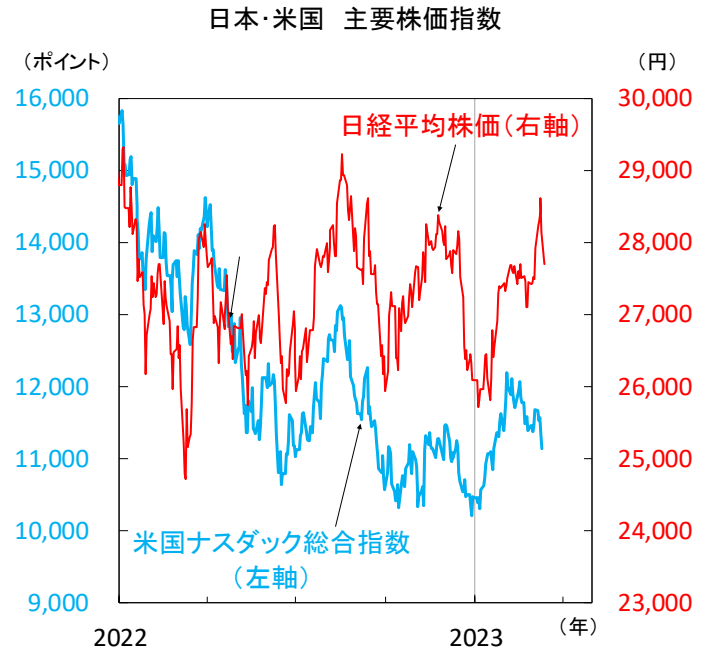
12日にはニューヨーク州のシグネチャー銀行の事業停止が発表されるなど銀行部門の混乱も見られたなか、同日に金融当局は2行の預金全額保護を発表し、火消しに動きました。当面は、SVB破綻の余波に目配りが必要ですが、米大手銀についてはリーマン・ショック後に課せられた厳しい健全性審査をクリアし続けていることもあり、金融システム不安に発展する可能性は低いとみまます。

■ 米国利上げは継続か否か、市場は神経質に

SVB破綻問題は、次週21-22日の米連邦公開市場委員会（FOMC）への見方にも影響を与えています。先週7日の議会証言でパウエル米連邦準備理事会（FRB）議長が利上げ再加速を示唆したこともあり、一時0.5%利上げ実施への思惑も高まりましたが、10日の2月米雇用統計から賃金上昇率鈍化や失業率上昇を確認、今般の金融不安が重なり、大幅利上げ観測は急速にしぼんでいます（図2）。

FOMCが従来方針通り、淡々と利上げを続けるのか否か、市場内の不透明感が増すなか、目先は株安・金利低下・円高圧力の残りやすい展開が予想されます。（瀧澤）

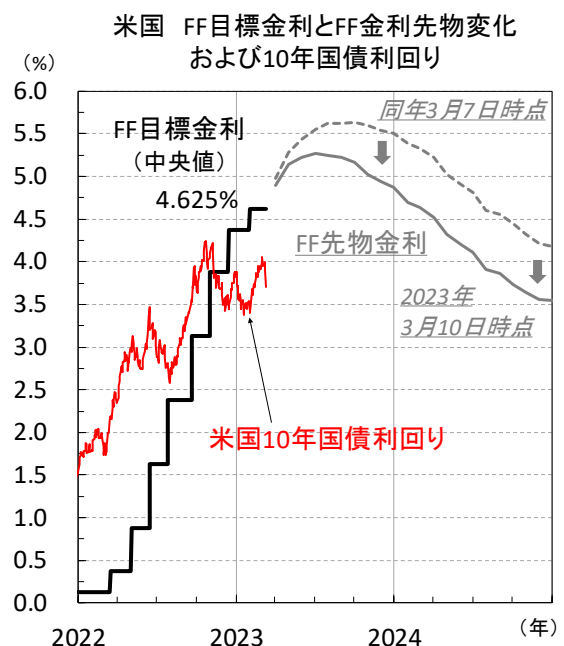
【図1】 SVB破綻で米ハイテク株が急落し、日本にも波及



注) 直近値はナスダック総合指数が2023年3月10日（終値）、日経平均株価が同年3月13日（前場終値）。

出所) Refinitivより当社経済調査室作成

【図2】 米国の大幅利上げ観測は急速に後退



注) FF先物金利は2023年3月7日（パウエルFRB議長議会証言）と同年3月10日（2月雇用統計およびSVB経営破たん発表）の比較。FF目標金利と10年国債利回りの直近値は2023年3月10日。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。

本資料中で使用している指数について

「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会